

2013・夏休みすいせん図書

— 本の森へ —

中学生



西東京市図書館

★ 「かあさんは どこ？」 ★

クロード・K・デュボワ 作 落合恵子 訳/ブロンズ新社

戦争からとおいはずのその土地に、とつぜんの砲撃。子どもがいそいでうちにかえると、いえはめちやめちや、だれもいない。外にはたくさんのひとが倒れ、たどりついた場所には知らないひとばかり。その子はひとり。かあさんも、いもうとも、ともだちもいない…。おそろしい戦火の中を生きていくことになった、ある子どもの物語をスケッチ風の白黒タッチで描く。



♣ 「火鍛冶の娘」 ♣

廣嶋玲子 著/角川書店

鍛冶の匠である三雲の火麻呂を父に持つ少女・沙耶は、父の仕事に憧れ、自分も火鍛冶になりたいと思う。けれど、火鍛冶の世界には、女はなってはいけないという掟があった。どうしても火鍛冶になりたかった沙耶は、男「佐矢琉」として生きることを決心し、父の死後も火鍛冶を続けた。そんな沙耶の前に、都の王から王子の剣を鍛えてほしいという依頼が来る。



◎ 「お面屋たまよし」 ◎

石川宏千花 著 平沢下戸 画/講談社

面作師のもとで修行をし、お祭りの場でお面を売る太良と甘菜。彼らは屋号をふたつ持っており、縁日で見かける子どものおもちゃの面は表屋号の《お面屋たまよし》。裏の屋号《魔縁堂》では妖面というものを売っているのだ。妖面をつけると、自分のなりたいたいと思う人間になれるのだ。ふたりは、いろいろな悩みを持つ人々にであい、妖面を売っていく。
※お面屋たまよし〔2〕もあります。



□ 「おれたち戦国ロボサッカー部！」 □

奈雅月ありす 著 曾根愛 絵/ポプラ社

熱烈な織田信長ファンの恩田伸永(ノブナガ)は、親父の転勤により名古屋から家康生誕の地、岡崎に引っ越すことになった。おまけに、いやいや転校した中学校にはサッカー部がないことを知り、がっかりする。

そこで、担任が教えてくれたのは「ロボサッカー部」。入部することにしたノブナガの前に、宿敵イエヤスがあらわれる。



● 「ある日とつぜん、霊媒師」 ●

エリザベス・コーディー・キメル 著 もりうちすみこ 訳/朔北社

キャットの母親は、霊媒師。死んだ人が見えて、話もできて、死んだ人と生きてる人との仲介をする人。そのおかげで、家では日常的にさまざまな怪奇現象が起こり、見えない亡霊たちが、キャットに多大な迷惑をかけ、人生を狂わせている。ところが、十三歳の誕生日を迎えたキャットにも、なんと、霊が見え始めたのだ!



◆ 「怪物はささやく」 ◆

パトリック・ネス 著 シヴォーン・ダウド 原案
池田真紀子 訳 ジム・ケイ イラストレーション/あすなる書房

母さんと二人ぐらしのコナーは、最近おそろしい夢を見るようになった。ある真夜中、名前を呼ばれて起きるとイチイの木の姿の怪物が庭にいて、「わたしが三つの物語を語り終えたら、今度はおまえが四つ目の物語をわたしに話すのだ。そのためにわたしを呼んだのだから」と語った。怪物とは何者なのか。そして、その目的は…?



☆「あの日、そしてこれから-東日本大震災2011・3・11-」☆

高橋邦典 写真・文／ポプラ社

ひがしに ほん だいしん さい
東日本大震災からほぼ一年が経った2012年2月。
こきょう である みや ぎけん
故郷である宮城県を訪れた著者は、震災直後に取材・
さつえい ひ さいしや さいかい
撮影した被災者の人々に再会しました。この一年を
どんな思いで過ごしてきたか、そして「これから」の
ことをどう考えているか。写真とともにそれぞれの
言葉がつづられています。彼らの「声」に耳を傾けな
がら、あなた自身の「これから」を考えてみて下さい。



■「正しいパンツのたたみ方-新しい家庭科勉強法-」■

南野忠晴 著／岩波書店

みなさんは「家庭科」が好きですか？この本の著者は、高校で13年間英語の教師をしたあと、男性では珍しい家庭科の教師となりました。その著者が、自分の暮らしを自分で整える力＝「生活力」を身につけるために役立つ技術や、考え方を具体的にアドバイス。「パンツのたたみ方いろいろ」や「洗濯物の干し方いろいろ」のイラストも楽しいです。



♥「サラダ記念日-俵万智歌集-」♥

俵万智 著／河出書房新社

皆さんは短歌をつくったことはありますか？短歌は「五七五七七」の三十一文字で書かれています。この定型のリズムを得た言葉たちは、生き生きと泳ぎだし不思議な光で表現されます。無駄なごちやごちやを切り捨て、表現のぜい肉をそぎおとし、残ったものを定型という網でつかまえ、短歌がうまれるのです。

